

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディは、とくに呼吸器系で使用されることの多いレメディです。

■呼吸器系

- ・咳：発作性の咳で、早朝6時頃と夜中の12時近くになると悪化する傾向があります。咳は、冷たいものを飲むと楽になります。暖かい部屋や温かい飲物で悪化します。糸を引くような痰がからむことがあります。喉の奥に糸状の粘液が絡んでいる感じがします。口腔咽頭部粘膜が反射性の感覚過敏を起こし、わずかな刺激で嘔吐を誘発してしまうことがあります。また、歯を磨くだけで、強い吐き気を催すことがあります。
 - ・百日咳：咳とともに、多量の濃い粘液状の痰が出て、ときに吐き気や嘔吐を伴うことがあります。咳が立て続けに出るときには、顔色が赤黒くなります。
 - ・嘔声：咳を伴い、咳のたびに喉頭部がむずかゆく感じたり、ヒリヒリすることがあります。ときに耐えられないくらいのかゆみが咽頭部にあり、それが咳を誘発します。
 - ・喘息
 - ・結核
 - ・クループ
 - ・鼻感冒
- ### ■泌尿生殖系
- ・腎臓痛：黒い凝血塊を含む血尿を伴うことがあります。



- ・尿路結石
- ・外陰唇の炎症：感覚過敏になっていて排尿で悪化します。

■特異的な感覚

眼瞼と眼球の間に異物があるような感覚、胃の中に石かボールがあるような感覚、小血管内に液体を注入されたような激しい痛み、何かが胃に向かって上ってくるような感覚、気管支内に粘液が上がったり下がったりするような感覚、すべてのものが心臓のほうに向かって押されている感覚、頭が2つに割れるような感覚などがあります。

MODALITY

- ▶ 冷水浴、歩くこと、寒い部屋、少量の冷たい飲物など
- ◀ 暑い室内、体を圧迫する服、歯磨き、夜と早朝、暑さ、寒さに曝されることなど

Coffea cruda コーヒー [不眠症]

Coffea arabica L.

BACK GROUND

Coffea crudaは、エチオピア原産のアカネ科コフィア属に属する常緑樹です。樹高は6～7m程度です。

ホメオパシーで使用されるアラビカ種は、気候に非常に敏感で、寒さに弱いだけでなく、高温や多湿にも弱く、南北の回帰線の間の高原地帯に多く栽培されています。

エチオピアでは「国樹」に指定されています。ちなみに、アカネ科の植物には350属4,000種類ほどがあり、それぞれ薬効をもったものが多く、ホメオパシーでもChinやIpecacuanha、Yohimbiumなどがあります。

す。

葉は対生し、長さ7～10cm程度の長楕円形で、厚く光沢があります。9月の開花期には白い花が咲きます。白または淡い黄色でミカンのような芳香があり、花弁は5～7枚あります。果実は長さ1.5cmほどの楕円状で、緑色から赤色、紅紫色に熟し、サクランボに似ていることから、チェリー・ビーンと呼ばれています。実の甘い果肉の中にある2個の種子を乾燥させて焙煎したものが、コーヒー豆です。種子は、半分の面が平たく、深い溝が真ん中にあります。

果実の中に種が1つだけ入っているものは球形で、



(A)

エンドウ豆に似ているので、ピーベリー pea berry と呼ばれて珍重されています。また、マルチスペルムという種が数個入っているものが、稀にあります。

コーヒーには、さまざまな薬効が知られており、眠気覚ましや嘔吐、吐き気、片頭痛、疲労回復、倦怠感、健胃作用、動脈硬化、高血圧、神経の緊張、肝機能障害などの治療をはじめ、抗酸化作用、結腸癌や直腸癌に対する抗癌作用、血糖値を安定させる作用などが確認されています。また外用薬として、火傷の治療にも豆の粉末が使われています。

コーヒーには多くの薬効成分が含まれており、わかっているだけでも300種類以上に上ります。コーヒーの香りに関する成分だけでも40種類以上があります。

代表的なものには、次のようなものがあります。

- ・不揮発性物質：カフェイン、トリゴネリン、クロロゲン酸、ニコチン酸、フェノール酸、カフェ酸、各種アミノ酸、炭水化物、粗繊維、各種ミネラルなど。
- ・揮発性物質：有機酸、アルデヒド類、ケトン類、エステル類、アミン類、メルカプトン類など。

この中でもとくに、プリン誘導体のアルカロイドであるカフェインは、強い作用をもっています。カフェイン $C_8H_{10}N_4O_2$ には、次のような作用があります。

- 1) 中枢神経興奮作用：少量では、主に大脳皮質に作用し覚醒作用、疲労感を軽減します。夜眠れなくなります。中程度の量では、呼吸中枢刺激作用が加わります。多量では、脳髄質にまで作用し、間代性筋痙攣などの症状が発現します。
- 2) 骨格筋に対する作用：骨格筋に直接作用して、筋収縮を増強します。
- 3) 利尿作用：腎臓血管の拡張や尿細管の再吸収抑制などがあります。
- 4) 心筋、血管に対する作用：冠状血管弛緩作用、また心筋に直接作用して、収縮増加、心拍数増加、拍出量増大を起こします。
- 5) 胃液分泌促進作用

6) 代謝亢進作用：脂肪酸を分解し、善玉コレステロールを増やす作用など。

また、クロロゲン酸には、胃液分泌促進作用、抗酸化作用、抗癌作用などがあります。

カフェインの毒性については、1g以上で神経症状が出て、10gで致死量に達するとありますが、実際には非常に幅広い個体差があります。なお、コーヒーに含まれるカフェインの量は微量なので、コーヒーを飲んでいて急性中毒を起こすことは通常ありません。

コーヒーの毒性については、次のようなものがあります。

■急性中毒

ふるえ、不安感、不眠、間代性筋痙攣、頻脈、不整脈、期外収縮、感覚器過敏、めまい、痙攣、幻覚などがあります。

■慢性中毒

- ・神経系：不眠症、不安感、指のふるえ、ふくらはぎの筋痙攣など。
- ・心血管系：頻脈
- ・消化器系：舌苔の増加、胃酸過多、片頭痛

■その他：多尿、掻痒症、湿疹など

また、最近の研究では、コーヒー常用者は、心血管系に影響を及ぼす血中総コレステロール値と、血漿ホモシステイン値が、上昇していることが判明しています。



(A)

MATERIAL

熟した実を5日間アルコールに浸け、軟らかくして濾過したもの

FIRST PROVING

Coffea cruda は、ハーネマンによってブルーピングされました。1803年にハーネマンは、『On the effects of coffee』を出版しています。その後、4人のホメオパスがブルーピングしています。

焙煎したコーヒー豆のレメディは、Coffea tostaです。Coffea crudaのマザーティンクチャーとの主な違いは、カフェイン、クロロゲン酸、トリゴネリン、ビタミンPP、カラメル濃度や40種類を超える芳香物質の変化の違いが知られています。

MIND

Coffea crudaは、神経が高ぶっていて、非常にあらゆる感覚が過敏になっているのが特徴です。

Coffeaタイプは、痛みに耐えることができません。

AFFINITY

Coffea crudaは、神経系、循環器系、生殖器系、精神、女性に親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

■精神神経系

- ・不眠症：神経過敏になっていて、わずかな音に対しても過敏で、眼が冴えてしまいます。ついあれこれ頭の中で考えてしまい、疲れていてもなかなか眠れません。頻脈や動悸を伴う例も見られます。仕事の発表や試験などのストレスで発症します。
 - ・過剰興奮：落ち着きがありません。
 - ・頭痛：爪を頭の中に捻じ込まれるような痛みがあります。感覚過敏になっていて、臭い、音楽や騒音、足音などで悪化します。冷湿布で楽になります。
 - ・ふるえ
 - ・顔面神経痛
 - ・耳鳴り：聴覚が敏感になっていて、蜂がブンブンするような音が聞こえることがあります。
 - ・慢性疲労症候群：強い感覚過敏を伴います。
 - ・神経痛：ショック様の痛みが腕や足に走ります。運動、午後に悪化します。圧迫すると楽になります。
- ##### ■呼吸器系
- ・鼻血：嗅覚が非常に鋭いです。



- ・喉の痛み
- 消化器系
 - ・歯痛：氷水を口に含むと一時的に痛みが和らぎます。温かい飲物で悪化します。
 - ・吐き気：粘性のある胃液を吐くことがあります。酸っぱい胃液が喉まで上ることがあります。
- 心血管系
 - ・不整脈：驚きや過度の興奮状態で起こります。
- 泌尿生殖器系
 - ・女性の外陰部の過敏症：生理用品の装着や性交も嫌います。
 - ・月経困難症
- 皮膚
 - ・痒痒症：皮膚が感覚過敏になっています。

MODALITY

- 暖めること、冷たい水（歯痛に対して）など
- うれしさなどの過度の興奮状態、強い臭い、音、外気、寒さ、ストレス、過食、飲酒、夜など

RELATIONS

- ・Antidotes：Nux vomica、強いブラックコーヒー
- ・Incompatible：Camphora, Cocculus
- ・Complementary：Aconite

Colchicum autumnale イヌサフラン [吐き気]

Colchicum autumnale L.

BACK GROUND

Colchicum autumnaleは、北アフリカ、欧州から中央アジアにかけて原産の、イヌサフラン科（ユリ科）

イヌサフラン属の多年草球根植物、コルチカムです。Colchicum属はヨーロッパや北アフリカからアジア中央部にかけて、65種が分布しています。